

社会福祉法人サンプル法人の経営状況について、日本公認会計士協会「社会福祉法人の経営指標」およびご提示いただいた厳格ルールに基づき、高度経営分析を実施しました。

1. 経営指標分析結果

指標名	当期値	算定根拠(分子/分母・科目名)	前期値	WAM 平均 (2024)	評価
サービス活動増減差額率	5.14%	191,027,961 / 3,716,729,231 (サービス活動増減差額 / サービス活動収益計)	4.11%	1.55%	優良：全国平均を大きく上回り、前期比でも改善。本業の収益性が非常に高い。
経常増減差額率	4.18%	155,425,597 / 3,716,729,231 (経常増減差額 / サービス活動収益計)	3.03%	2.0%	良好：支払利息等の営業外費用を吸収し、安定的な経常利益を確保している。
流動比率	249.59%	1,510,765,875 / 605,287,383 (流動資産 / 流動負債)	217.35%	318.0%	概ね良好：WAM 平均よりは低いですが、200%を超えており短期的な支払能力に問題はない。
純資産比率	22.14%	1,725,755,028 / 7,796,119,062 (純資産の部合計 / 負債及び純資産の部合計)	20.68%	73.2%	要注意：借入依存度が高く、自己資本が薄い。大規模な設備投資による負債が要因。
固定長期	87.41%	6,285,353,187 / (1,725,755,028 +	89.55%	82.8%	安定：100%を大きく下回っ

指標名	当期値	算定根拠(分子/分母・科目名)	前期値	WAM 平均 (2024)	評価
適合率		5,465,076,651 (固定資産 / (純資産の部合計 + 固定負債))			ており、固定資産が安定的な長期資金で賄われている。
借入金比率	72.50%	5,652,288,082 / 7,796,119,062 (借入金残高合計 / 負債及び純資産の部合計)	73.80%	16.4%	低水準: 全国平均を大幅に超える借入水準。利息負担と償還圧力が経営の重石。
借入金償還余裕率	74.77%	355,396,896 / 475,335,219 (借入金元利払額 / 事業活動資金収支差額)	算定不能	56.0%	慎重: キャッシュフローの約75%が借入返済に充てられており、余裕が乏しい。
債務償還年数	11.89年	5,652,288,082 / 475,335,219 (借入金残高・リース債務合計 / 事業活動資金収支差額)	算定不能	5.0年	懸念: 返済に約12年を要する見込み。WAM平均の2倍以上であり返済負担が重い。
事業活動資金収支差額率	12.69%	475,335,219 / 3,744,681,902 (事業活動資金収支差額 / 事業活動収入計)	算定不能	6.7%	優良: 収益に対する現金創出力は非常に高く、これが返済原資を支えている。

指標名	当期値	算定根拠(分子/分母・科目名)	前期値	WAM 平均 (2024)	評価
人件費比率	62.37%	2,318,261,205 / 3,716,729,231 (人件費 / サービス活動収益計)	63.32%	66.9%	良好:WAM 平均より低く、効率的な人員配置・管理がなされている。
事業費比率	8.79%	326,649,536 / 3,716,729,231 (事業費 / サービス活動収益計)	8.57%	15.0%	優良:非常に低い水準でコントロールされており、収益に寄与している。
事務費比率	14.49%	538,583,391 / 3,716,729,231 (事務費 / サービス活動収益計)	14.25%	10.5%	やや高:管理部門の費用が平均より高い。事務の効率化に余地がある。
減価償却費比率	8.29%	(415,312,846 - 107,155,909) / 3,716,729,231 ((減価償却費 - 国庫補助金等特別積立金取崩額) / サービス活動収益計)	8.48%	6.8%	高水準:設備投資額が大きいため比率が高いが、収益力でカバーできている。
正味金融資産額	861,914,632	(909,933,244 + 0 + 7,500,000 + 0 + 3,839,388) - 59,358,000 (現金預金+有価証券+定期預金+投資有価証券+積立資産計 - 運営資金借入金)	754,837,632	設定なし	安定:現預金を中心に十分な流動性を確保。前期比で約1億円増加。
固定資産	43.47%	3,875,712,147 / 8,916,175,944 (減価償却累)	算定不能	設定なし	標準:設備の半分弱が償却

指標名	当期値	算定根拠(分子/分母・科目名)	前期値	WAM 平均 (2024)	評価
老朽化率		計額 / 有形固定資産取得価額)			済み。今後 10 年程度で大規模改修の検討が必要。

Google スプレッドシートにエクスポート

2. 算定不能・データ不足報告

- 前期の資金収支関連指標(借入金償還余裕率、債務償還年数、事業活動資金収支差額率)
 - 不足データ: 前期の資金収支計算書データ(比較対象がないため算定不能)。
- 固定資産老朽化率(前期値)
 - 不足データ: 注記における前期の有形固定資産明細。

3. 詳細考察レポート: 収益力で支える高レバレッジ経営

① 正味金融資産額の分析

当期の正味金融資産額は 8 億 6,191 万円 となり、前期(7 億 5,483 万円)から約 1 億 700 万円増加 しました。

- 構成内訳: 現金預金(9.1 億円)が主軸であり、運営資金借入金(約 0.6 億円)を差し引いても、潤沢な手元流動性を保持しています。
- 評価: 法人全体として、日々の運転資金や急な設備修繕に対応できる十分な「実質的な蓄え」を持っています。借入金総額は大きいものの、運営資金については自前で賄えている健全な状態です。

② 財務構造の総括

貴法人の経営は「高収益・高レバレッジ型」と定義されます。サービス活動増減差額率(5.14%)は全国平均を大きく凌駕しており、現場の運営効率は極めて高いです。一方で、借入金比率(72.5%)や債務償還年数(11.89 年)は、財務の脆弱性を示唆しています。高い収益性が維持されている間は問題ありませんが、公定価格(報酬改定)の低下や稼働率の低下が起こった際、返済負担が急速に経営を圧迫するリスクを孕んでいます。

③ 経営者へのさら問い

1. **事務費の構造改革:** 事務費比率(14.49%)が全国平均を4ポイント以上上回っています。高収益を支える本部機能の維持費として妥当な範囲内でしょうか、あるいはデジタル化等による削減余地はありますか？
 2. **金利上昇リスクへの備え:** 56億円を超える借入金を有していますが、金利上昇局面における支払利息の増加(経常増減差額の圧迫)に対し、どのような耐性または対策(固定金利への切替等)をお持ちでしょうか？
 3. **将来の再投資計画:** 固定資産老朽化率が43.4%に達しています。現在の借入返済が12年続く中で、将来の施設建替えや大規模修繕に向けた資金積立(減価償却費の内部留保)は計画的に進んでいますか？
-

④ 出典

- WAM データ: 独立行政法人福祉医療機構「2-3.社会福祉法人の経営状態の推移(全国平均)」2024年度(令和6年度)統計値
- 分析手法: 日本公認会計士協会 非営利法人委員会研究報告第27号「社会福祉法人の経営指標」